

オルガノ（6368）企業分析レポート | 作成日：2026年01月11日

【直近5年の業績推移】

決算期	売上高（百万円）	営業益（百万円）	経常益（百万円）	EPS（円）	配当金（円）	寸評
2021.03	100,638.0	9,579.0	9,900.0	154.2		安定成長
2022.03	112,069.0	10,850.0	11,545.0	200.7		利益拡大
2023.03	132,426.0	15,212.0	16,020.0	255.8		高成長
2024.03	150,356.0	22,544.0	23,425.0	376.9		最高益更新
2025.03	163,269.0	31,120.0	31,639.0	525.4		過去最高

【財務・キャッシュフロー概要】

決算期	営業CF（百万円）	投資CF（百万円）	財務CF（百万円）	現金残高（百万円）	自己資本比率（%）
2023.03	-18,536.0	-1,309.0	14,706.0	15,558.0	52.3
2024.03	3,726.0	-1,415.0	-641.0	17,642.0	55.8
2025.03	21,100.0	-2,130.0	-20,821.0	16,751.0	62.2

【財務コメント】

近年は大型案件増加を背景に営業CFが大きく改善しており、2025年3月期は大幅なプラスに転じた。投資CFは設備投資を中心に安定した支出が続く一方、財務CFは株主還元や負債調整の影響で変動している。自己資本比率は60%超まで上昇し、財務健全性は一段と強化された。

【会社概要】

オルガノは水処理装置および関連サービスを主力とする機械メーカーである。超純水製造技術に強みを持ち、半導体、医薬、食品、化学など幅広い産業分野に製品とエンジニアリングサービスを提供する。装置販売に加え、運転・保守、薬品供給などのサービス収益も重要な収益源となっている。

【歴史】

同社は戦後の産業復興期に水処理技術を基盤として事業を拡大してきた。高度経済成長期には産業用水処理で実績を積み、以降は電子・半導体分野向け超純水分野に注力することで技術的優位性を確立した。近年は海外展開も進め、グローバル案件の比重が高まっている。

【立ち位置】

水処理業界において、オルガノは高付加価値な超純水分野で確固たる地位を占める。特に半導体関連需要の拡大局面では、装置・サービス両面で恩恵を受けやすいポジションにある。国内外の競合が存在する中でも、長年培った技術力と実績が差別化要因となっている。

【見解】

中長期的には、半導体・医薬・環境分野を中心とした高付加価値水処理需要の拡大を追い風に、オルガノの収益基盤は堅調に拡大していく可能性が高い。一方で、設備投資サイクルに左右されやすい側面や、半導体市況の調整局面では受注変動が業績に影響する点には注意が必要である。

【株価・市場情報】(2026年01月11日)

株価(終値・円)	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り(%)	信用倍率(倍)	時価総額(億円)
13,945					

【同業他社比較】

銘柄名	株価(円)	PER(倍)	PBR(倍)	時価総額(億円)	特徴
荏原	4,410	27.2	4.2	20,400	ポンプ主力。環境・半導体装置も展開。
栗田工業	6,862	20.7	2.2	7,973	水処理専業最大手。超純水に強み。
三井E&S	6,470	25.1	3.4	6,670	船舶エンジン中核。水素分野注力。
三菱重工業	4,267	62.3	5.8	140,000	航空・宇宙・防衛の総合重工。
カナデビア	1,002	16.9	1.0	1,705	廃棄物処理・発電設備主力。

【投資成功シナリオ】

半導体製造投資の回復と医療・環境分野での設備更新需要が同時に進展し、オルガノの受注残が高水準で推移する。超純水関連案件の増加により装置販売と保守サービスの双方が伸長し、利益率も改善基調を維持する。

【投資失敗シナリオ】

半導体市況の悪化や設備投資の先送りにより主要顧客の投資計画が縮小し、受注残が減少することで成長が鈍化する。競争激化や価格圧力も重なり、想定していた収益拡大が実現しない可能性がある。

【メモ】

半導体向け受注動向と海外案件の進捗が短中期の注目点。高水準業績が続く中で評価過熱には注意が必要。